

ニューヨーク日本人学校における特別活動の実践

前ニューヨーク日本人学校 教諭

福島県いわき市立好間中学校 教諭 遠 藤 愛

キーワード：在外教育施設、特別活動、平和教育、ゲストティーチャー、学習発表会

1. はじめに

アメリカ、ニューヨーク。世界経済の中心とも、新しい文化が生まれる場所とも呼ばれる。その近隣に位置するニューヨーク日本人学校において勤務した3年間は、あらゆる意味で得難い経験となった。その中から、ニューヨーク日本人学校における特別活動についてご紹介したい。

2. 特別活動部の取り組み

(1) 平和教育

ニューヨークは、2001年9月11日に同時多発テロが起こった街である。事件以降、人々の平和への関心は高まり、様々なイベント等が催されている。ニューヨーク日本人学校の特別活動部は将来世界を担う子どもたちに、この場所に住んでいるからこそできる教育は何かと考え、毎年「平和月間」という取り組みを行っている。

「平和月間」は8月15日の終戦記念日から始まり、9月21日の世界平和デーまでの期間、集会等をとおして、今の世界の情勢や平和について考えていこうというものである。8・15集会では、歌手による被爆ピアノを使用しての演奏や、広島灯ろう流しの様子の紹介、平和な世界のために何ができるかを考える講演を行った。9・11集会は当時ニューヨーク日本人学校にいた生徒の作文を紹介したり、米人スタッフの体験を伝えたりと、平和であることの大切さを感じ取らせる集会を運営した。集会に限らず、学校生活の中でも、調べ学習を行って学習を深める学級もあった。平和月間の最終日は、国際平和デーと国連で制定されている日である。その日は世界中で「Peace Day with Pinwheels」という取り組みが行われる。それは平和を願って風車を作り、庭や道に飾ろうというイベントである。子どもたちはアートの時間に思い思いのメッセージを書き込んだ風車を作り、学校に飾る。200本弱の色とりどりの風車が回る様子は圧巻であり、それらに込められた願いを見ると、この平和月間の取り組みが、確実に子どもたちの心に足跡を残していると強く感じた。

さらに昨年は、「セプテンバーコンサート（9・11同時多発テロ後のニューヨークで始まった、街に音楽を響かせようという取り組みに端を発した取り組み）」日本支部のオフィシャルイメージソングである「you can ～愛の国」を平和月間のテーマソングとし、全校生で熱唱、思いを表現した。

(2) 一流との出会い

冒頭にニューヨークを「世界の中心」と述べた。この場所には各分野において一流のもの、一流の人々が集まってくる。ニューヨーク日本人学校はその恵まれた環境にあり、幸運なことに、年間を通し著名人からの多数の学校訪問希望が舞い込んでくる。また、特別活動部において子どもたちに学ばせたいことを検討し、講演等を依頼することもある。

私が在籍した3年間だけでも、野球選手、落語家、警察音楽隊、ミュージシャン、指揮者、俳人、写真家、絵本作家、平和活動家、当時の内閣総理大臣夫人と多数の著名人による講演会や特別授業を行っていただいている。時には校内での活動に止まらず、ニューヨークのセントラルパークで行われる「Japan Day」という日本文化を紹介する大々的なイベントにて、本校の子どもたちとジャズサクソ奏者が共演したステージが好評を博したこともある。

過去に遡れば、ノーベル賞受賞者、元宇宙飛行士、テニスプレイヤー、ピアニスト、バイオリニストとゲストティーチャーの専門分野は多岐にわたっている。

各界で「一流」と称される人々との出会いにより、子どもたちは大きな夢と憧れを抱く。だが、我々教師側では、その何倍もの教育的効果を上げたいと考え、会の運営に臨む。そのため、一つの講演会を企画するにあたっては、膨大な時間を要することになる。

流れとしては、まず、教師間で入念な話し合いがもたれる。何を子どもにつかませたいのか、どのような思いを抱かせられたら成功なのかを徹底的に何時間でも話し合う。その土台を作った上で、ゲストティーチャーと内容の打ち合わせを行う。こちらの思いや願いをぶつけ、相手の伝えたいこととの共通点を見いだしていく。その後、司会とインタビュアーは講演の流れを原稿に起こしたり、子どもたちからの質問の順番を決めたりと、綿密な最終打ち合わせを行う。そのように行う講演会は、子どもたちにとって、一つのことを極めた人間の生き方に感銘を受け、今の自分にできることは何なのかを考えるとともに、これからの人生の指針を見つける貴重な機会にもなり得る。また、子どもの素直に感動する様子を目の当たりにし、「来て良かった。」と逆に礼を言われるゲストティーチャーも少なくない。目を輝かせる子どもたちと、ゲストティーチャーの感激の涙。我々担当者にとって、当日までの苦労が喜びに変わる瞬間である。

3. 学習発表会への取り組み

(1) 学習発表会の位置づけ

多くの学校がそうであると思うが、学習発表会は年間の行事の中で最も子どもたちが輝く場である。ニューヨーク日本人学校においても例外ではなく、「学級経営の天王山」と呼ばれる学習発表会が11月に行われる。初等部では、1年生から6年生までが学年ごとに20分間から30分間までの舞台発表を行う。どの学年の児童も大変意欲的に取り組むが、同時に保護者の関心も、要求する教育水準も高い。そのため、担任の力量が問われる場ともなる。

(2) 本番までの動き（劇）

学習発表会への取り組みを紹介すると、まず、担任は、4月に学級がスタートした時点から、子どもたちが何に関心があるのか、どんな資質をもっているのかを観察する。それとともに、世界の国々が抱える問題、平和について、環境問題、歴史、アメリカの文化など、様々な課題を投げかける。もちろん担任も必死に情報を集め、文献を探し、人と会って取材をするなどの努力をしなければならない。8月上旬の夏休み明け、子どもたちが課題を調べてきたところから長い話し合い活動が始まる。話し尽くし、意見や方向性がまとまってくるのが9月中旬。そこでいよいよ、どんな内容をどんな形で発表するのが見えてくる。

昨年はすべての学級が表現方法として演劇を選んだ。必要となってくるのは脚本である。しかし、子どもたちが選んだ内容は、既存の小学校演劇の脚本で表現しきれものではない。担任は、子どもたちとの話し合いをオリジナルの脚本にまとめていくことになる。どの担任も初めて挑戦する脚本作りは難航を極めたが、何ヶ月も子どもたちと悩み、話し合ってきた内容が徐々に形になっていくことは大きな喜びであった。何よりも、子どもたち自身の達成感に満ちた顔は、苦労した分を補ってあまりあるものである。

(3) 本番までの動き（歌）

舞台発表では、どの学年も劇の内容にあった歌を歌う。脚本作りと平行して選曲に入るのだが、歌詞やメロディ、ハーモニーが子どもたちに合っているかどうかを約30曲ほどの候補から絞っていく。高学年になると英語の曲も候補に入れ、歌い込む。時には編曲をプロに依頼し、単旋律の曲を合唱に直して本格的に歌う学級もあった。さらに、プログラムの最後には平和月間の「you can ～愛の国」を全員で歌い上げた。これらの取り組みにより、「歌声の響く学校」という位置づけが確かなものになっていった。

※下は劇の内容の一部である。

題名	学年（年度）	合唱曲	あらすじ
Empire State of Mind	5年（2010）	Empire State of Mind （JAY-Z, Alicia Keys）	国連の平和の鐘をめぐり、エンパイヤーステイトビルで繰り上げられる大活劇。
Thank you America!!	1年（2011）	新しい日 （作詞・作曲 柚梨太郎）	主人公「やだもん」の成長物語。震災復興に協力してくれたアメリカに「ありがとう」を伝え、日本人の元気な姿を見せるために最後は長縄に挑戦。
笑顔をさがして	2年（2011）	笑顔をさがして （作詞：2A 作曲：遠藤愛）	子どもの笑顔をねらう「笑顔泥棒」を追う主人公たち。飢餓のアフリカ、震災の東北、そして被爆地・広島を結ぶ感動のドラマ、
Season of Love	4年（2011）	Season of Love （ミュージカルRENT主題歌）	反抗期の主人公が家族愛を知るために旅する時空アドベンチャー。震災の晩の出産という実話を元にした物語。
Don't Stop Believin'	6年（2011）	Don't Stop Believin' （Journey）	米騒動の富山県と独立戦争時のボストンを結ぶタイムスリップもの。独立宣言書を託された野球少年たちが巻き起こす一大活劇。

4. おわりに

ニューヨーク日本人学校に赴任して3年。最大の事件は2011年3月11日に起きた。東日本大震災、その後の福島原発の一大事故。津波の被害の甚大さ、そして、放射能による被害の深刻さ。日本に関わるすべての人々にとって、忘れることのできない出来事となった。

しかし、大震災に見舞われた日からちょうど一週間後の3月18日。日本から遠く離れたニューヨーク日本人学校で震災救済チャリティーコンサートが開催された。春期休業中にもかかわらず、当日、子どもたちは次々と舞台上がり、日本に元気と勇気を贈ろうと全力で歌っていた。真剣で力強い歌声が講堂に響き、「you can ～愛の国」の合唱では、想いを伝えようとする子どもたちの姿に、涙する観客も多かった。

特別活動の平和教育、ゲストティーチャーとの出会い、学習発表会への取り組みをはじめとした、学校教育活動で育まれた確かな学力が、子どもの中に息づいていることを実感することができた。それは、遠く離れていても想像できる力であり、自分にできることを自分で探し出す力であり、辛いときにこそ、豊かに表現できる力である。そんな逞しい心を持つ子どもたちに出会えたこと、そして、志を共にして働く仲間に出会えたことを心より感謝している。